

## 対談

工藤 阿須加 氏（俳優）

今野 聡（農林水産省 農産局 園芸作物課長）

### ○今野課長

それでは工藤さんに色々なお話を伺っていきたいと思います。よろしくお願ひします。

### ○工藤 阿須加 氏

よろしくお願ひします。

### ○今野課長

まず、工藤さんに本日のシンポジウムへ参加をお願いした理由を簡単にお話ししたいと思います。現在、新型コロナウイルス感染症やウクライナ危機など、世の中が混乱していますが、改めて日本の食料を国民の皆様へ安定供給していかなくやいけない、そういった意識や要望が高まっている状況です。今後も日本の農業が、国民の皆様へ農作物を安定的に供給し続けていくためには、何よりも国民の皆さんに国産の農産物を選択いただき、食べ続けていただくことが重要です。一方で、厚生労働省が作成している「健康日本21」においては健康維持の観点から、野菜を1人1日当たり350グラムの摂取を推奨していますが、現状は280グラムにとどまっている状況です。

全体の3割の人は野菜摂取目標量を達成していますが、特に若い方々が野菜の摂取量が少ないという状況を踏まえて、若い方々に訴えかけられるようなシンポジウムができないかと、テーマを「もっと野菜を食べよう～若い世代の摂取量を増やすために～」として検討を進めてまいりました。そこで若い方々に訴求できるインパクトのある方にぜひご参加いただきたいということで、工藤さんにお声かけさせていただきました。駄目もとでお願いしたところ、受けていただきました。改めて本当にありがとうございます。

### ○工藤 阿須加 氏

こちらこそ、お声がけいただき光栄です。ありがとうございます。

### ○今野課長

早速ですが、工藤さんに色々お話を伺っていきたいと思います。

まず、俳優業などお忙しい中で、農業もやられていて、しかも家庭菜園的なものではなく、出荷もされて本格的な農業をされている。出荷もするってそれだけでも大変だと思うのですが、そもそも農業を始めたきっかけを教えてくださいたいと思います。

### ○工藤 阿須加 氏

僕はこれまで食に関わるが多かったんです。父がアスリートということもあって、母が常に気を使って色々な野菜や栄養があるものを食卓に並べてくれたり、農家さんのところに足を運んで良いものを購入するというをしていたので、自然と小さい頃から色々な農家さんや栄養の先生にお会いすることが多くなり、食には興味がありました。その中で、日本の農業が大変なことになっているということを、小さいながら耳にしていました。僕が農業に興味を持って、「やろう、やらなきゃいけない」と思ったのは、木村秋則さんの本『奇跡のリンゴ』を読んでからで、東京農業大学に入りました。

コロナの状況が続いて、自分と向き合う時間が増え、僕がずっとやりたかった農業を色々なところに発信したい、伝えていきたいという思いは、例えばお金ができれば、時間ができれば、でやり始めたら間に合わないし、そんなこと言っている場合じゃないなど。今すぐ始めることによって、伝わること、僕自身が経験できることって本当に今しかないなと思って。リスクを取らないことがリスクだと思って、思い切って農業を始めることにしました。

### ○今野課長

なるほど。そうは言っても農業が厳しいということも分かっているながら農業に飛び込んでいくという、大変な決断だと思いますが、工藤さんのような若い方が農業に思いを持って飛び込んでいただくと、インパクトもあるし発信力もあるので非常にうれしいなと思います。

ご指摘があったとおり、日本の農業、生産者の方々は高齢化が非常に進んでいまして、若い担い手の確保が重要になっています。

早速ですが、工藤さんが取り組んでいる阿須加農園についてお話をお伺いできればと思います。農園を始めて2年目になると思いますが、具体的に農園ではどのような取組をされているのか教えてください。

### ○工藤 阿須加 氏

昨年は農園で15~18種類くらいの野菜を作りましたが、なぜそんなに野菜を作ったかという、それは経験のためです。

自分が役者をしながら農業をやっていく上で、自分に向いている野菜、向いていない野菜、手間がかかる野菜、手間がかからない野菜を見極めたかったのも、沢山の種類の野菜を作りました。今年は少し野菜の種類を減らして、自分が美味しいと思う作りやすい野菜、少し手を離れても育つ野菜を選択しました。今年はお世話になっているご家族を呼んで、こどもたちに土に触れるおもしろさだったり、自然の魅力を知ってもらうために農業体験なども行いました。出荷を通して、僕が作った野菜を少しでも多くの方に手に取っていただいて、美味しいと思ってもらいたい。僕自身が野菜を

食べて美味しいって感じていて、その美味しさを誰かと共有したいっていう思いがあるんです。それを去年と今年に取り組むなかで実行できているので、来年も同じことを続けていけたらいいなと思っています。

○今野課長

15～18 種類くらいに絞り込んだということですが、今年はどれぐらいの種類を作っているんですか？

○工藤 阿須加 氏

今年はですね、まず縮みホウレンソウをメインに作らせてもらって、そこから、ジャガイモ、サトイモ、生トウモロコシ、ブロッコリー、カリフラワー、スイカ、メロン、ショウガなどを作っています。これから、白菜2種類、ビーツ2種類、あとは長ネギも作っていったらなと思っています。

○今野課長

減っていませんね (笑)。

○工藤 阿須加 氏

そうですね、減っていませんね (笑)。やっぱり僕が美味しいと思う野菜を作ってるので、それを少しでも多くの方に食べていただけたらなと思って。

○今野課長

今おっしゃられた多くの野菜たちは、今年2年目ということですが、全て出荷されているのですか？

○工藤 阿須加 氏

全てではなく、出荷する野菜は限定していて。それ以外は、自分自身が食べる野菜やお世話になっている方に食べていただきたい野菜、こども食堂に配る野菜だったりを作っています。生トウモロコシの出荷は、これから先も続けていけたらいいなと思っています。

○今野課長

出荷されるものっていうのはトウモロコシが中心ですか？

○工藤 阿須加 氏

そうですね。でも、こんなこと言いながら来年全然違うものを作っているかもしれませんね (笑)。

○今野課長

もし安定的にトウモロコシが出荷されれば、みんながそれを買いたいなんてニーズも高まってくるかもしれないですね。あと、先ほどご紹介のあった、こどもと一緒に農作業をする機会を作ったということですが、農園の近くのお子さんとはですか？

○工藤 阿須加 氏

そうですね。今、日本テレビの「有吉ゼミ」さんが僕の農作業を密着し撮影してくださっているんですが、スタッフさんのご家族が農園に遊びに来てくれて一緒にスイカとメロンを植えたんです。一緒に植えたスイカをこどもたちに食べてもらったりすると、野菜嫌いだったりとか、食べたことない野菜でも、これ不思議なんですけど、自分が植えたり作った野菜は苦手でも食べようとするんですよ。そこで美味しいと思ったら「私はこの野菜じゃなきゃいやだ」という子がいたりするので、小さいころから農業体験をし野菜を美味しいと思ってもらえれば、大人になっても食べてもらえるのかなって。まだ漠然とですが、感じたことの一つですね。

○今野課長

まさに、食育をしっかり体現されている感じですね。

今日は農作業中の写真もご用意いただいているということで、ご紹介いただけますか。

○工藤 阿須加 氏

これはジャガイモとトウモロコシの写真です。広さでいうと、今年は大体 1.5 反あるかないかぐらいですね。

○今野課長

こちらの写真ではマルチを張っていますね。ずいぶんと本格的ですね。

○工藤 阿須加 氏

そうですね。なるべく出荷する野菜に関しては良い状態のものを作りたいので、何よりも丁寧に手入れをしています。

○今野課長

マルチも自分でやっていらっしゃって、もともと農業の基礎的な知識は大学でも学ばれたのですか？

○工藤 阿須加 氏

僕は農学部じゃなくて経済学部でしたが、経済学部に行きながらでも他の学部の授業もとれましたし、1週間、農家さんに研修で行くこともあったので、多少の知識は

ありました。

○今野課長

こちらの写真ではトラクターを運転していますね。

○工藤 阿須加氏

トラクターは農園の方から貸していただいて作業しています。

○今野課長

ちなみにご紹介ですが、農水省では農作業安全確認運動というものをやっています、ちょうど明日9月1日から農作業安全運動確認月間なのですが、ぜひ事故のないようトラクターに乗るときはシートベルトを締めて安全に農作業をやっていただければと。余計な話ですが（笑）。

○工藤 阿須加氏

いえいえ（笑）、大事なことです。

○今野課長

次もマルチ張っておりますが、これは何を植えているのですか？

○工藤 阿須加 氏

右の写真はトウモロコシだと思います。左の写真は・・・何だったかな（笑）。

○今野課長

沢山の野菜を作っていますからね（笑）。

本当にこれらのお写真からも本格的に農業に取り組んでいることがよく分かりましたが、実際に農業に飛び込んでみて、農業を実際にやった前と後で、心境の変化や考えの変化は自分の中でありましたか。なお、これに関してはご視聴いただいている方からも関連質問が来ておりますので2つご紹介します。

「工藤さんが農業を始められたというテレビ番組を見ました。農業に限りませんが、一般的に続けていくことには困難もあると思います。困難だと感じられたこと、また、どう乗り越えられたかななどの体験談や、そのことによる心境の変化などがあれば、ぜひ伺ってみたいです。」という質問と、「農業を始めて、考え方が変わったこと、変わった価値というものがございますか。」というご質問です。いかがですか。

○工藤 阿須加 氏

そうですね。はっきりと言ってしまうと、自然は嘘つかないんだと改めて思いました。豪雨や天候に恵まれないなど様々な自然の影響もありますが、自分が野菜や土

に真摯に向き合っていれば、自然は嘘つかないんだと感じていますね。すごい本質を感じるというか。自分たちがここで野菜を作っているという感覚よりも、作らせてもらっているという感覚があって。人間は自分たちが生きていくためや欲のためもあると思うのですが、勝手に山を切って土地を作って動植物をどけて、害虫の駆除をして、など、色々やっているんですけど、共存っていう部分がすごく僕自身大切なんだなと思っています。自然を感じられる、生きるということを実感できるのは、ここ1年半～2年間だけでもとても感じる事ができていて、これは一つ大事な事なんだろうなと思います。これを子どもたちにも伝えていくことによって、自然の魅力、自然の大切さが自ずと食の大切さにもつながると思っているので、これは僕自身が本当にやってよかったなと感じる事です。もちろん大変な事もいっぱいあるんですが。

#### ○今野課長

2年目ということで、育てている野菜が病気になったり、害虫に食べられちゃったり、そういうようなこともあったりすると思うんですけど。

#### ○工藤 阿須加 氏

僕は農薬も化学肥料も使わずに栽培していて、今年はトウモロコシを3,000株植えて、1,650本を出荷させてもらいましたが、あとはB級品です。大体6～7割できたら本当にすごいと思います。出荷できないものでも美味しく食べられるんですけどね。トウモロコシに限らず他の野菜とかもそうです。

#### ○今野課長

先ほどお伺いしましたが、出荷される以外のB級品も有効活用されているということですね。

#### ○工藤 阿須加 氏

そうですね。子ども食堂や施設に送らせてもらったり、あとは虫食いがあったり傷んでいたりしたものでも良いと言ってくれる知人やお世話になっている方に送ったりしています。虫食いの部分や傷の部分は切り落とせば品質には問題ありませんからね。みなさん、「美味しいし、この状態でも何の問題なく食べられるんだね。」と言ってくれます。「こういった野菜でももっと色々なスーパーに並べばいいのにね。」って言ってくれる人たちもいるので、これから先、何か色々できることもあるのかなとは思っています。

#### ○今野課長

もともと食の意識が高い工藤さんですが、改めて自分が実際に農作物を作ってから、ご自身の食生活も何か影響が出たりしていますか。

○工藤 阿須加 氏

いや、あまり変わらないですね (笑)。

○今野課長

そうですね (笑)。もともとしっかり食べているってことですか？

○工藤 阿須加 氏

そうですね。僕自身はもともと野菜が好きなので食べます。ただ、撮影が続いたりすると食事のバランスが崩れたりするので、落ちついたタイミングで野菜中心の生活にしたり、自分の体と向き合いながら、バランスをとりながら食べるように心がけています。自分で作って自分で食べるっていうのが、こんなに美味しいんだっていうことに気付いているので、いざ食べ始めると食べ過ぎちゃったりもするんですけど (笑)。

○今野課長

先ほどおっしゃった「経験」で作った出荷されないものは、皆さんに配ったり、自分で持って帰ってきて自炊されたりとかするのですか。

○工藤 阿須加 氏

そうですね。うちの家族は蒸し野菜が好きで、蒸し野菜にすると1番栄養が抜けにくいというのを聞いているので、いつも蒸し野菜が多いですね。蒸し野菜にすると簡単に摂れますし、皮のままでも食べられますからね。

○今野課長

農業を始めて色々な感じたこと教えていただきましたけども、今回、工藤さんにご登壇をいただきまして、若い方も多くご視聴いただいております。我々のイベントはどうしても堅いと思われて若い方にはあまり見ていただけないんですけど、今回は工藤さんのおかげで、若い方にも非常に多く見ていただいております。折角なので、最後に若い世代の皆さんに向けてメッセージなどあればお願いしたいと思いますが、ご視聴されている方から質問をいただいておりますのでご紹介します。

「私は栄養に関わる職業に就くために勉強しています。いつも応援している工藤阿須加さんが農業に関わられていることを知り、刺激になり、さらに夢を叶えられるように頑張っています。そこで質問なのですが、野菜を通して若い世代に伝えたいこと、またその人たちにとって野菜がどんな存在であってほしいかを教えてください。これからも応援しています。」という内容です。いかがでしょうか。

○工藤 阿須加 氏

そうですね。野菜って、苦手な人が多いのかなっていう印象があって、でもそれは人それぞれ好き嫌いがあって仕方ないことだと思います。ただ嫌いだから食べないと

いうよりも、いろんな方法があって、もしかしたらこの調理法なら、この野菜は食べられたりすることってあると思います。あとは、今はネット社会で様々な情報にアクセスできますから、もし時間やチャンスがあれば、いろんな農家さんのところでの体験や、家庭で野菜を作ることも良いと思います。今日、僕がここで話をさせていただいたことで、何かちょっとでも興味を持ってやってみようかなと思った方は、もうとにかくどんどん行動をしてもらえたらうれしいなと思っています。やっぱり行動しないと何も分からないと思います。調べることも一つの行動ですし、やってみることも行動ですし、それで失敗することも僕はすごく素敵なことだと思っています、失敗しないといろんな選択肢が見えてこなかったりしますから。野菜を通して伝えたいことという、やっぱり美味しい野菜はたくさんあって、その野菜を僕はいろんな人に食べてほしいし、僕はいろんな人と共有をしたい。だからこそ、今日僕の話したことが皆さんの何らかのきっかけになれば、それが僕のやる意味にもなったりするので、皆さんが少しでも野菜に興味を持ってもらえるように、僕も微力ながら皆さんのきっかけになれるのであれば自分の取組をずっと続けていきたいと思っています。これから先、僕自身も農業体験の場を増やせていけたらなと思うので、もし今回見ていただいた方で興味のある方は、僕の農園に1度遊びに来てください。チャンスがあれば1人でも多くの方に農業の魅力を伝えていけたらなと思います。

#### ○今野課長

工藤さんのように、思い切って農家のところで畑を借りてというのは、なかなか踏み切れなくても、私も毎年作っていますが、プランターでも野菜はできますしね。ただプランターでもなかなかうまくいかないんですよ(笑)。でも、そういうところを通じてできたものってやっぱり美味しいなと思います。

さて、あっという間にお時間が来てしまいました。大変興味深いお話で、まだまだお話を伺いたいところですが、工藤さんにはこの後のパネルディスカッションにもご参加いただきますので、引き続きお話を伺えたらと思います。それでは、工藤さんのお話はここで一旦終えさせていただきます。

工藤さん、ありがとうございました。

#### ○工藤 阿須加 氏

ありがとうございました。